

受講番号 18077 学校名 清水ヶ丘中学校 氏名 片岡 美穂

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年3組 生徒数 27 名
 科目名 3年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Sunshine English Course 3(開隆堂)

クラスの様子・特徴

授業規律がよくできていて、リーディングの声もよく出る、雰囲気の良い授業が展開できるクラスである。しかし、英語が難しいと感じている者が多く、わからなくても進んで質問しようしない者もいて、授業の中で十分に定着が図られないという課題がある。

問題の確定

語彙の力をつけ、英語の文章を読める力をつけることが、自分の思いを英語で表現する力につながっていくのではないだろうか。

予備調査

A 授業の観察

ペア活動がよくできる。基本文の導入は、それを使って対話をする活動の方が定着できる。学習したことを使って身近なことを英語で表現する活動は、まだ困難さを感じながらも、辞書を使ったり教えあったりしながら意欲的に取り組もうとしている。

B 生徒による授業評価

2度の授業アンケートの結果では、授業の理解度は、1回目(6月)は68%、2回目(7月)は88%。指導者が声をかけ、励ましていると思われているほど、生徒は感じてくれている。英語は難しいけど頑張りたいという感想が多い。

C 学力データ

昨年度末のCRTテストでは、聞く力・話す力は全国平均に近づいているが、読む力・書く力はまだまだである。定期テストは前期Ⅱ期テストの方が、Ⅰ期より努力の跡が見られた。習熟度診断テストは20点以下の者が、当初の3分の1くらいに減っている。

リサーチ・クエスチョン

まとまった英文の内容を読み取る力をつけるためには、どのように指導すればよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

1年、2年生の英単語や文法事項の復習を取り入れていけば、英語学習を諦めかけている生徒も、英文の内容を読み取ろうとするだろう。

⇒

実践1

・毎週初めに、1週間前に渡した課題から、単語・基本文テストを行った。後期からは、楽しみながらストライク・スペアをめざすようなボーリング式テストにした。
 ・自主課題のがんばりプリント"GAMPRI"(難易度を違えた2種類)を渡して提出した者には添削をして、返す指導を続けてきた。
 ・3年生の内容の指導の中でも、1・2年生の内容を確認しながら説明をした。

⇒

検証1

・単語テストの結果は途中で問題数を変えたので、当初と比較できないが、12月実施分では4割が満点をとっている。
 ・がんばりプリントの提出が、最初は4人であったが、今は10人となり、添削して返したら、すぐに提出してきたり、まちがっていたところをよく質問したりする者も増えつつある。
 ・文の意味をとろうとする時、わからない単語の意味を調べようとする者が増えてきた。

仮説2

新出単語や連語、基本文をしっかり定着できれば、文の内容を読み取る力につながるだろう。

⇒

実践2

・発音、意味、綴りの留意点を確認してリズム読みを行った。
 ・毎日1ページのがんばりノートを課題にして、書いて覚える練習を続けさせた。
 ・基本文は、導入時に関心を持たせる指導を心がけCommunication Activityを行うだけでなく、プリントやワークで必ず書く練習を行った。

⇒

検証2

・ほぼ全員が楽しそうにリズム読みができていた。
 ・定期テストの言語の知識の観点別評価の得点結果は、前期Ⅰ期テスト→67.5%、Ⅱ期→65.8%、Ⅲ期→51.1%、後期Ⅰ期→57.9%で、内容が難しくなっていたこともあり、成果がでていない。
 ・がんばりノートを毎日出せる者が5割から6割と増え、要点をまとめたり、英文の意味も書いたりして充実したものになってきた。

仮説3

意味のかたまりをつかむような音読練習をたくさん行えば、英文に対する抵抗が少なくなるだろう。

⇒

実践3

・夏の研修以降、スラッシュリーディングを取り入れ、かたまりごとの意味をつかんで個々の文を理解する練習をしてきた。班やペアを使って、かたまりごとに読んだり、意味を言ったり、意味を聞いて英語の語句のかたまりを言ったりという練習を何度も行うようにしてきた。

⇒

検証3

・定期テストの理解の観点別評価の得点結果は、前期Ⅰ期テスト→42.8%、Ⅱ期→66.1%、Ⅲ期→58.6%、後期Ⅰ期→62.0%で、当初より高くなっている。
 ・スラッシュリーディングを取り入れてからの授業アンケートでは、7割の者が文をかたまりごとに読むことで文の意味がつかみやすいと回答している。また、このやり方を続けてほしいと書いている者も数名いた。シャドウイングも意欲的にできている。

研究の成果

・進路の決定の時期がせまったことにもよるが、単語テストの点が上がったり、ワークの問題が自分でとけたりと、自信を少しずつつけて、英語学習に意欲的に取り組もうとする者が増えてきたように思う。
 ・教科書の本文の意味を読み取る時、「わからない」と言って、手をつけようとしていなかった者も9月以降スラッシュごとの意味をとろうとするようになった。
 ・ある課題について自分でまとめた英文を書く課題は、難しいと言って、取り組もうとしない者が多かったが、現在では間違いがありながらも、英文を書いて、提出する者が増えてきた。

今後の授業改善の課題

・「英語はあきらめた」「英語は使わないから勉強しない」という者(他のクラスだが)をどう授業の中に引き入れていくか、更に工夫が必要である。
 ・英語の文を作って書く、自由に会話するという場面も多く、生徒の意欲を引き出し、言語の知識・理解の力をつけながら、英語で表現する力を更に高めていくことが必要である。